2021 年 6 月 23 日

第 106 期株主総会 事前質問への回答について

この度は、当社株主総会に先立ち多数のご質問を頂き、誠にありがとうございました。頂いたご質問について、下記の通り回答させていただきます。よろしくお願いいたします。

記

Q1　配当性向が低いのではないか。もう少し高くなるよう目標設定をしてはどうか。
A　配当性向については、将来的には30%以上を目指しておりますが、天災等で主要な事業資産が甚大な被害を受けた場合でも安定した経営が継続できるよう、自己資本を2,000億円程度までは引き上げ、リスク対応力を向上したいと考えております。

Q2　株式時価総額向上に対する今後の展望はあるのか。
A　現在、中長期ビジョン策定とその実現に向けた戦略につき、具体的な議論に入っております。今年度は、コロナ禍で行動は制限されていますが、体質強化に取り組みつつ、次年度からの中期経営計画に繋げ更なる企業価値の向上に努めてまいります。

Q3　プロテイン商品の売上が伸びているとの報道があるが、速筋タンパクの売上、対象ユーザー、評判および今後の認知度向上に向けた施策について教えてほしい。
A　速筋タンパクは、2019年度から市場に投入しており、2020年度売上実績は、約18億円となりました。 現在は、シニア層や筋肉の衰え予防の方々がメインユーザーですが、今後は、若年層および筋肉増強をニーズとしている層へも認知を広げるため、速筋タンパクの効果である「筋肉が増えることをサポートする」をメディアへ発信することに加え、ＴＶＣＭの投入やキャンペーンを実施しております。

Q4　役員の持株数が低いのではないか。
A　取締役の中期経営計画への達成意欲を高めるとともに、取締役が株価上昇によるメリットのみならず、株価下落リスクも株主の皆様と共有することで、中長期的な業績向上と企業価値向上に貢献する意欲を高めることを企図し、2018年に業績連動型株式報酬制度を導入しました。今後、取締役の持株数は徐々に増加すると考えております。

Q5　連結損益計算書の営業外収益が、個別損益計算書の営業外収益より少額なのはなぜか。
A　受取配当金が、連結損益計算書では697百万円、個別損益計算書では6,108百万円となったため、連結損益計算書の営業外収益が個別損益計算書より少額となりました。個別損益計算書では子会社からの受取配当金を営業外収益として計上しますが、連結損益計算書では親子会社間の取引として子会社からの受取配当金は消去されます。

以上